



## 窮地を救ったのは、地道な努力と誠実さ

4学科の先陣を切り、環境・サービス科の『卒業生講話』が行われました。講師はウエルシアオアシス(株)様に1年半勤務している平成27年度卒業生の星川直生さんです。

星川さんは、2年生の後半には希望の会社を絞り、そこで計8回の実習を行いました。3年生では採用を見越した定着実習を実施していながら、会社の都合で採用見送りという残念な結果になってしまいました。1月も終わる頃でした。

しかし、約1年半前に実習したウエルシアオアシス様から、「星川さん卒業ですね。どうしていますか？」とお声掛けがありました。「実は…。」と事情をお伝えしたところ、「うちの会社でどうですか？」と話が進み、2月末に内定をいただくことができました。

**それは星川さんが1つ1つの実習を一生懸命、誠実に努めていたからに他なりません。学校生活のルールを守り、常に身だしなみにも注意を払い、どんなことにも真面目に地道に努力をしていました。だからこそ、「こんな人がうちの会社にほしい。」と欲していただけなのでしょう。**

卒業目の窮地を救ったのは、日頃の地道な努力と誠実さでした。現在星川さんは、責任ある仕事も任せられるようになり、時々残業をこなすなど活躍しています。在校生の皆さん、「こんな人がうちの会社にほしい。」と思ってもらえる自分であるか、もう一度見直してみてください。

\* H28年度「進路だより16号」より抜粋



## 普段の自分、見直そう！



マラソン大会表彰式、文化祭校内発表会でも校長先生からお話をいただきましたが、寒くなって、残念ながらポケットに手を入れている生徒を見かけることが増えました。ポケットに手を入れるのが癖になっている人もいます。

先日、2度目の志望実習に挑んだ3年生の話です。採用が決まるかどうかという緊張した状況で、1年生より何度も先生方から注意されていた癖が出てしまいました。指導員さんや先輩社員さんとお話する時に知らず知らずにポケットに手を入れ、馴れ馴れしい言葉遣いだったそうです。もちろんそれだけが原因ではありませんが、結局その生徒は不採用となりました。

身だしなみ、言葉遣い、挨拶、人との関わり方等々注意されている人は、意識して直していかないと大事な時に普段の自分が出てしまいます。